

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書の訂正報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第4項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年9月20日

【四半期会計期間】 第30期第3四半期(自平成26年10月1日至平成26年12月31日)

【会社名】 株式会社省電舎

【英訳名】 SHODENSYA CO.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 鷗澤 利雄

【本店の所在の場所】 東京都港区芝大門二丁目2番11号

【電話番号】 03-6821-0004(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 福本 裕士

【最寄りの連絡場所】 東京都港区芝大門二丁目2番11号

【電話番号】 03-6821-0004(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 福本 裕士

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の訂正報告書の提出理由】

当社が平成26年3月19日に提出いたしました有価証券届出書の「手取金の使途」について重要な変更が生じたことにより、平成27年2月13日に提出いたしました第30期第3四半期(自平成26年10月1日至平成26年12月31日)四半期報告書の記載事項の一部に訂正すべき事項がありましたので、これを訂正するため、四半期報告書の訂正報告書を提出するものであります。

2 【訂正事項】

第一部 企業情報

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況

(5) 発行済株式総数、資本金等の推移

3 【訂正箇所】

訂正箇所は_____線で示しております。

第一部 【企業情報】

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

(訂正前)

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額(千円)	資本準備金 残高(千円)
平成26年10月1日～ 平成26年12月31日		1,842,273		873,099		680,279

(訂正後)

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額(千円)	資本準備金 残高(千円)
平成26年10月1日～ 平成26年12月31日		1,842,273		873,099		680,279

(注) 平成26年12月26日付「ライツ・オフアリングの行使結果を踏まえた現状のバイオガスプラント事業スケジュール及び当社の事業方針について」(以下、「平成26年12月26日付リリース」といいます)においてお知らせいたしましたとおり、現状、当初予定しておりましたバイオガス・プラント事業4案件のうち、静岡案件1件に絞り込んで案件推進しております。その中で設計費用等の支出が先行しておりますので、一部調達資金の支出が発生している状況であります。
これにより、平成26年3月19日に提出いたしました有価証券届出書に記載した「手取金の使途」につきまして、平成26年12月30日に以下のとおり重要な変更が生じております。

当社グループの第3四半期連結会計期間における入出金の状況

第2四半期連結会計期間末における当社グループの現預金残高は360百万円であり、平成26年12月26日付リリースに記載の通り、ライツ・オフアリングにより調達した資金の残高は338百万円でありました。

平成26年12月において、工事案件の部材、工事費等の支払いが集中し、売掛金及び工事の前払い代金等の入金額を上回り、資金繰り状況が悪化することが想定されたため、運転資金として100百万円の新規借入を実行いたしました。これにより、平成26年12月26日付リリース開示時点では、12月末日までの入出金の予定から試算した資金繰り上では、ライツ・オフアリングによる調達資金を除いた当社グループ資金により、問題無く支払いが可能な状況でありました。

しかしながら、取引業者の一家から12月末(平成26年12月29日)入金を見込んでいた工事完了時金(約240百万円)が、当日入金されず、ライツ・オフアリング調達資金を除いた当社グループの現預金では、当日の支払い予定額全額の支払いには約65百万円不足することが見込まれたため、当社の12月末支払い分の一部(工事部材の支払い約90百万円)を当初予定の29日から30日に変更し、やむを得ず、ライツ・オフアリング調達資金の残額から100百万円を資金移動することにより対応致しました。

これにより、平成26年12月末日の当社グループの現預金残高は約285百万円、うち、ライツ・オフアリング調達資金の残高は238百万円となっております。

今後の資金繰り見込みについて

前述の通り、平成26年12月末ではグループ現預金残高としては、ライツ・オフアリングによる調達資金を含み約285百万円となっておりますが、12月末に入金を見込んでいた工事完了時金についても平成27年1月には入金され、また、今後、別の工事案件の着工時金等も入金されることから、資金繰り状況としては改善される見込みであり、一時的にライツ・オフアリング調達資金より資金移動した金額については、現状、ライツ・オフアリング資金に戻しておりますので、ライツ・オフアリング調達資金の残額は、平成26年9月末残高と同額の338百万円となっております。